女性防火クラブだより

発行所：岐阜市女性防火クラブ運営協議会事務局
〒500-8812 岐阜市薮江本町2-9 岐阜市消防本部予防課内
☎058-262-7163
令和8年11月1日号（通算第55号）

秋の火災予防運動



11月9日から11月15日

全国統一防火標語

火の確認　いい日を支える　いい習慣

十一月九日から十一月十五日までの間、全国一斉に秋の火災予防運動が行われます。この運動は、火災が発生しやすい季節を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図るなどを目的に、毎年実施されるものです。

今年度の統一防火標語は『**火の確認　いい日を支える　いい習慣**』です。

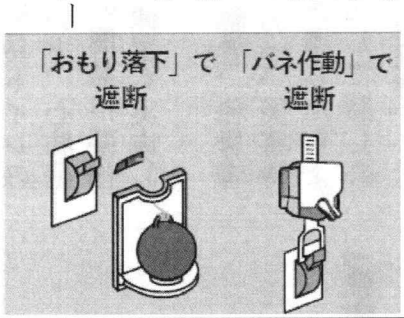
感震ブレーカー設置していますか？

東日本大震災や能登半島地震で発生した火災で原因が特定されたものの過半数は、電気が原因で発生した火災であると分かりました。大きな地震が発生すると、停電後の復旧時などに破損した電気配線などが原因で、火災が発生するおそれがあります。

感震ブレーカーは、震度5強相当の揺れを感知すると自動的に電気を遮断し、電気火災を防ぐための機器です。

女性防火クラブでは消防本部と協力し、感震ブレーカーの普及啓発活動を行っています。

是非この機会に感震ブレーカーの設置を検討しましょう。



感震ブレーカー情報
（岐阜市ホームページ）

今、備えよう！電気火災対策

感震ブレーカーの種類は四つ

○**分電盤タイプ（内蔵型）** 揺れを感知すると一定時間の後、電源が遮断されます。**電気工事が必要**です。

○**分電盤タイプ（後付型）** 既設の分電盤に外付けするもの。**電気工事を必要**とし、取り付けができない機器もあるので設置前に確認が必要です。

○**コンセントタイプ** 差込型と埋込型があり、揺れを感知するとコンセントから電気を遮断するものと、ブレーカーから一括で遮断するものがあります。

○**簡易タイプ** バネや重りにより物理的にブレーカーのスイッチを落とす仕組みのもの。ホームセンターなどで購入することができ、比較的簡単に取り付けが可能です。（上部のイラスト参照）

今年の火災概況

一月一日から六月三十日までの上半期、岐阜市内で発生した火災は五十四件で、前年の同時期と比較すると二件増加となっています。

出火原因は、**「電気関係」**が**最も多く十三件、続いて「たばこ」**が七件、**「放火・放火の疑い」**が六件でした。

火災による死者は**二人**、負傷者は**八人**で、前年の同時期と比較すると死者、負傷者がともに一人増加となりました。

最も多く発生した火災の種別は、**建物火災**で、三十一件発生しています。

火災による損害額は約八千五百十九万円で、前年の同時期と比較すると四千五百三十九万円増加しました。

一件でも火災を減らすために、声を掛け合い**防火に努めましょう。**



各地区の女性防火クラブから

「三輪北女性防火クラブの活動」

三輪女性防火クラブ
会長　渡邉　清子

昭和三十年十二月一日、婦人防火クラブ発足。平成八年十二月一日、女性防火クラブと改称。現在は、伝統あるクラブを一年交代ですが、十六名のクラブ員にて左記の三本柱を中心に活動を行っています。

①防火、防災知識を身につける。
②防火、防災行動力を向上させる。
③家庭や地域住民に対する防火防災思想の普及を図る。

「三輪北地域を安全、安心に」を心構えとして、岐阜市北消防団三輪分団の激励、特に年末の夜警激励は、力を入れて協力しております。

このほか年間行事の前半は、指導員講習会に参加して、その知識、体験を持ち帰り、各クラブ員の知識向上を図り地域のより安全、安心を目指しています。

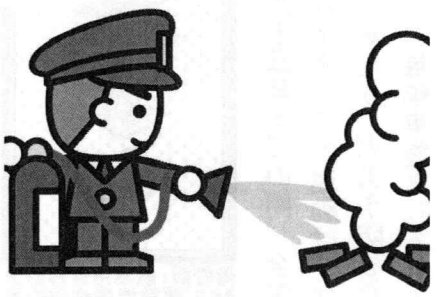
また、夏祭り、市民運動会、文化祭などの準備を他団体と共に協力して行い、九月には、大規模な防災訓練を三輪北地域全体で、百名以上の規模で実施していきます。内容としては、簡易トイレの作成、ＡＥＤの使い方、心肺蘇生の方法と毛布での簡易担架作成等で、事前に反覆練習も実施しています。

三輪北地域は、高齢者、独居者が増えつつありますので、災害時はどのように避難誘導したらよいのかも講習会を通して話し合い、検討を重ねております。

災害はいつ起こるか分かりません。被害を最小限に留めるためには、各一人ひとりが常に防火防災に心掛ける事が必要であります。

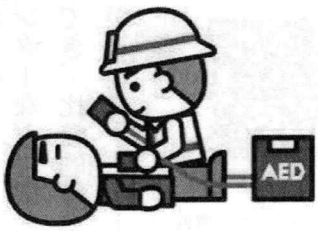
行事の後半には消火器取扱訓練を実施しようと考えています。

今後も自治会連合会、各種団体と連携しながら「自助」「共助」が出来るように様々な活動を実施していきたいと思います。



「救命講習を受講して」

岩女性防火クラブ
会長　松永　友美



先日、岩女性防火クラブの活動として救命講習会を開催しました。胸骨圧迫やＡＥＤの使い方を実際に体験し、命を救うために大切な知識を学ぶことができました。

講習では、岐阜市消防本部管内で昨年度約２万９千件の救急出動があり、119番通報から救急車が現場へ到着するまで平均７～８分かかることを知りました。

救急車が到着するまでの、その時間をつなぐのは、その場に居合わせた私たちの行動です。

実技では、まず周囲の安全を確認し、意識や呼吸を確認した後、119番通報とＡＥＤの手配を周囲の人へ依頼し、胸骨圧迫を行う一連の流れを学びました。

胸骨圧迫は「強く・速く・絶え間なく」が大切で、実際に体験すると想像以上に体力が必要でした。そのため、周囲の人と協力しながら交代して絶え間なく続けることの大切さを実感しました。

また、ＡＥＤは音声案内に従えば誰でも使用できることを知り、「難しそう」という不安が少し和らぎました。大切なのは、完璧にできるかではなく、勇気を持って一歩踏み出すことだと感じました。

今回の講習を通して、救急隊が到着するまでの数分間が命を左右する大切な時間であることを改めて学びました。もし目の前で人が倒れたときには、今回学んだことを思い出し、落ち着いて行動できるように心掛けたいと思います。

